

平城遷都1300年祭 県民活動支援事業『天平茶論シンポジウム』

# 天平の茶とその時代

## 聖徳太子は、お茶を飲んだか？

平城遷都1300年祭 県民活動支援事業

## 『天平茶論シンポジウム』

京都や堺の影に隠れがちですが、奈良は茶の湯のふるさと。

茶の湯の草創期を支えた茶人・風流人が、

奈良にあれこれ足跡を残しています。

そもそも、日本でお茶はいつから飲まれていたのでしょうか。

平安初期の歴史書「日本後紀」に、815年、

現在の天津市の梵釈寺（麁寺）で、

大僧都永忠が煎じた茶を、嵯峨天皇が飲んだという記録が

いまのところ、最古の文献のようです。ところがこれに先立ち、

平城宮跡から出土した木簡に「茶三斗五升」という

記載があります。裏面には「天平八年（736年）」の文字。

「茶」は「にがな」とされてきましたが、

当時の人にとってニガナとはいったい？

「茶」を「茶」の一種とすれば、日本でのお茶の歴史は、

奈良時代までさかのぼるのでは。

ひよっとしたら聖徳太子も飲んでいたかもしれない？

平城遷都1300年の今年、

事始めの地・奈良で、身近なお茶の歴史を見つめ直し、  
ロマンあふれる公開討論に耳を傾けてみませんか。

### ■第1部——講演

◎万葉人の食生活(30分)

伝承料理研究家

奥村彪生

◎茶の湯のふるさと奈良(30分)

帝塚山大学講師

神津朝夫

### ■第2部——シンポジウム

◎「聖徳太子は、お茶を飲んだか？」

【基調報告】(30分)

天平文化と茶

帝塚山短期大学名誉教授

青山茂

【パネルディスカッション】(90分)

◇パネラー

小川流煎茶家元

小川後楽

暮らしのお茶研究家

谷本陽蔵

京都造形芸術大学講師

寺田孝重

◇コーディネーター

中国国際茶文化研究会名誉理事

成田重行

◇総合司会

カラーアリストフリーアナウンサー 桶村久美子



桶村 久美子



成田重行



寺田孝重



谷本陽蔵



小川後楽



青山茂



神津朝夫



奥村彪生

日時／平成22年8月21日[土] (午後1時～4時30分 受付開始正午～)

場所／奈良県新公会堂 能楽ホール (奈良市春日野町101)

テーマ／「天平の茶とその時代—聖徳太子は、お茶を飲んだか？」

定員／500名(無料) 主催／フォーラム天平茶論 協賛／手向山八幡宮 関西印刷株式会社  
応募受付／株式会社エヌ・アイ・プランニング(天平茶論事務局)

TEL.0743-73-8877 FAX.0743-73-7781 (受付時間)午前9時～午後5時

フォーラム天平茶論：茶の文化的広がりや歴史についての理解を深めようと、海老澤博司氏の提唱で1999年に設立。

写真提供：奈良文化財研究所